

Salon

Vol.138 2022年5月 新緑号



ホール4F壁画 ポール・ギアマン作「レッスン」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — ザビエル・ラック
- 03 Phoenix Presents — Osaka Guitar Summer 2022
フィリップ・グラス「浜辺のアインシュタイン」
アンヌ・ケフェレック ピアノリサイタル
- 05 Pick Up
- 07 Essay de say — 国際音楽コンクールのすすめ 河井 拓

美しさと親しみに溢れたフルート ザビエル・ラックさん



昨年2月に3枚目CD『フルート・ソナタへの旅』をリリースしたフルート奏者のザビエル・ラックが、7月15日(金)、ティータイムコンサートに登場する。オーストラリア・シドニー出身。イギリス、オーストリアに学び、ウィーン国立歌劇場管弦楽団、およびウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の契約団員としてプロ・キャリアを開始。その後は各国のオーケストラとの共演を重ねている。メルボルン大学時代にはパシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌(PMF)に参加のため初来日し、ウィーン・フィルの首席フルート奏者であったヴォルフガング・シュルツや武満徹と出会っている。現在のラックのもう1つのプロフィールは、神戸女学院大学音楽学部で教える教師としてのそれだ。世界での経験をこの関西で後進に伝える彼の音色は、美しさと親しみに溢れている。ハープの福井麻衣、ヴィオラの東条慧とのアンサンブルは夏の午後に日陰の涼しさで聴く者の耳と心を癒すことだろう。

(取材・文:逢坂聖也/音楽ライター)

ザビエル・ラック(Xavier Luck/フルート) オーストラリア・シドニー出身、英國国籍。メルボルン大学を卒業後、英国王立音楽大学、ウィーン国立音楽大学で研鑽を積む。ウィーン国立音楽大学の学生時代よりウィーン・フィルハーモニー管弦楽団およびウィーン国立歌劇場の契約奏者を長年務めた。ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン交響楽団、ウィーン放送交響楽団、ウィーン室内合奏団、シドニー交響楽団、メルボルン交響楽団、京都市交響楽団、NHK交響楽団など、多くの世界的オーケストラにゲスト首席奏者として招かれ、演奏会、レコーディングを幅広く行う。なかでも、2006年にトーマス・クリスティアン・アンサンブルのメンバーとして録音したCDが、名譽あるドイツ・レコード産業最優秀賞を受賞した。パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)をはじめ、チロル音楽祭、ザルツブルク音楽祭など、音楽祭にも数多く参加し好評を博す。2005年から兵庫芸術文化センター管弦楽団の初代フルート奏者を務め、その後、2008年からソウル・フィルハーモニー管弦楽団の副首席奏者を4年間務めた。カメラータ・トウキョウより2017年にファースト・アルバム『タファネル 至高のファンタジスト』、2020年に『エレメンタル フルートで探る精霊たちの世界』、2021年に『フルート・ソナタの旅』がリリースされ、『レコード芸術』誌で特選盤に選出されるなど、高い評価を受けている。現在、神戸女学院大学音楽学部准教授。

良い生徒を育てたいという気持ちが年々強くなっているような気がします。

最新のCD『フルート・ソナタの旅』に、ラックさんはドビュッシーの『フルート、ヴィオラ、ハープのためのソナタ』を今回のコンサートと同じメンバーで収録しています。コンサートではこの作品と、武満徹の『そして、それが風であることを知った』が1つの世界を作っているように思えます。

その通りです。この2つの作品は同じ美的世界にあります。2人とも私の大好きな作曲家で、これらの作品はフルートのとても大切なレパートリーでもあります。

とても美しい共通した詩情のようなものが感じられる2曲ですね。

ドビュッシーはこの曲が完成して演奏されるのを聴いた時に、友人宛ての手紙に「笑えばいいのか泣けばいいのか私にはわからない。あるいは泣き笑うべきなのか」という詩のような言葉を書き残しています。この曲は彼の晩年に書かれた作品で、その頃彼はすでに病気がとても悪かったのですが、そこにはすごく小さな悲しみとすごく小さな幸福という相反する複雑な思いが込められているかのようです。そして武満の作品には4つの異なるテンポと4つの異なる強弱記号があり、そのすべての扱いが重要になってきます。

このドビュッシーと武満の作品を取り巻くようにロータやピアソラなどが置かれていて、そのことでコンサートがとてもバラエティに富んだものになっている印象があります。

彼らの作品はドビュッシーや武満とは異なる華やかな音色の世界です。似ているところもあるのですが、音色はそれぞれ違っていて、演奏するのがとても楽しいです。ピアソラの『タンゴの歴史』はフルートとギターで演奏されることが多いのですが、今回はフルートとハープで演奏してみようと思っています。

ハープの福井麻衣さん、ヴィオラの東条慧さんとは、これまでにも共演されているのですか？

福井さんは私と同じ学校で教えているので、何度か一緒に演奏したことがあります。東条さんはこのCDを録音するのにあたって初めて一緒に演奏しました。お2人とも素晴らしい演奏家で、福井さんは英語がとても堪能と言うこともあり、私自身とても助けられています。また東条さんはパリとベルリンで勉強されていて音楽的なコンセンサスも取りやすく、今回の共演も大変、楽しんでいます。

ドビュッシーや武満徹を大好きな作曲家と話していましたが、それはどんな理由からですか？

ドビュッシーを聴いて私はフルートを吹きたいと思ったのです。10歳ぐらいの時、オーストラリアで祖母に連れられてシドニー交響楽団のコンサートに行きました。プログラムに『牧神の午後への前奏曲』があって、そのフルトソロを聴いた時に私は初めて、自分もこんなソロが吹ける演奏家になりたいと思ったのです。

武満徹の作品との出会いは？

それも若い頃です。初めて聴いた時に恋に落ちましたが、PMF札幌で実際に武満さんに会ってよりファンになりました。18歳か19歳の頃だったと思います。私が初めて日本に来たのがその時でした。私の先生であるヴォルフガング・シュルツがPMFで講師をしていて、彼と初めて会ったのもその時です。私はシュルツ先生からアルト・フルートを渡されて、武満さんの曲を一生懸命勉強した記憶があります。『声』とか『巡り』とか『海へ』を吹きました。武満さん本人にレッスンしてもらつたんです。初めて吹く曲ばかりだったので失礼ではないかなと思いましたが、武満さんからたくさんアドバイスをもらって私にとっては忘れられない経験になりました。

すばらしい経験ですね。そのあとラックさんはイギリスに渡り、さらにオーストリアでウィーン・フィルの契約団員としてプロのキャリアを重ねていきます。

きっかけはシュルツ先生の勧めでウィーン国立歌劇場で吹いたことでした。その後ウィーン・フィルのメンバーのひとりが病気になり、欠員を埋めるためのオーディションがあったんです。それを私が受けて合格し、契約団員としてのポジションに就くことができたのです。

その後は長く務められたのですか？

契約団員として随分長くお世話になりました。今もウィーンとの関係は続いている、1年に何度かは国立歌劇場やウィーン・フィルのコンサートで演奏しています。去年のウィーン・フィルの日本ツアーや来日できなかったメンバーの代わりに私が吹いていたんですよ。

たくさんの国や土地での学びと実践があったわけですが、現在はラックさんご自身が先生でもありますね。教える立場になって大きく変わった事はありますか？

自分がどのように吹いているかということを、説明する技術を身につけなければいけなくなつたということでしょうか。またどのように吹いているのかを常に意識しながら吹かなければいけない、そんなところが大きく変わったと思います。技術的なこともそうですし、どういう風に説明すれば生徒たちが良くなるかということをいつも考えながら今は吹いています。これまであまり意識せずに自然に吹いていましたから、説明するとなるとやはり難しいです。でも自分の演奏にもそれがすごく助けになっていると思います。

ご自分が教えている成果や生徒たちの成長に満足していますか？

とても満足していますよ。演奏家になることだけをずっと目指してきましたが、自分の方向性を少しチェンジして教員になったことで生徒に教えることが好きになってきましたし、良い生徒を育てたいという気持ちが年々強くなっているような気がします。学校という環境の中で室内楽やソロの作品をさらに勉強する機会にも恵まれましたし、その中でもまず優先順位として良い生徒を育てたいということが自分の目標にあります。何というのでしょうか…良い先生になりたいです(笑)。

7月のコンサートをお客さまにどんな風に楽しんでいただきたいですか？

長く続いているコロナの影響や騒然とした世界の問題などいろいろありますが、少しの間だけ皆さんができるところから離れて幸せな気持ちになれる金曜日の午後であればいいなと考えています。そう思いながら演奏します。そしてドビュッシーが言ったように、泣いたり笑ったり、両方の気持ちを感じてもらえるコンサートになればいいと思います。

ティータイムコンサートシリーズ

ザビエル・ラック(Fl) & 東条慧(Va) & 福井麻衣(Hrp)

2022年7月15日(金) 14:00開演

一般3,500円 友の会会員3,150円

学生(25歳以下)1,000円(限定数)

■曲目

ニーノ・ロータ: フルートとハープのためのソナタ

サティ(武満徹編): 星の息子たち

武満徹: そして、それが風であることを知った

ピアソラ: タンゴの歴史

ドビュッシー: フルート、ヴィオラ、ハープのためのソナタ(予定)

■チケットのお求め・お問い合わせ

ザ・フェニックスホールチケットセンター

06-6363-7999(平日10:00~17:00、土日祝休)



Osaka Guitar Summer 2022

「Osaka Guitar Summer」は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールが世界的ギタリスト福田進一氏監修のもと、“真夏のギターの祭典”として毎年8月に実施している音楽プロジェクトです。2010年の創設以来、関西のクラシックギター文化の裾野を広げるさまざまな企画を継続的に実施しています。2022年度は、福田さんが出演する「ジョイントリサイタル」をメインに、「公開マスタークラス」「アンサンブルワークショップ」「ギター・ア・ラ・カルト」と4つの企画を用意し、クラシックギターの様々な側面をお楽しみいただきます。世界トップクラスのギタリストからアマチュアのギター愛好家まで、ギターを愛する人々が大阪に集う特別な2日間です。

2日間セット券 一般 6,500円 友の会会員 6,000円

(お一人様2枚まで)

※2日間セット券・学生券は当ホールチケットセンターのみのお取り扱い

※1公演毎のご購入も可能です。

| スケジュール | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00 | 16:00 | 17:00 | 18:00 |
|-----------------|-------|-------|-----------------|----------------|----------------|-------------------------|---------|
| 8月27日(土) | | 開場 | マスタークラス① 休憩 | マスタークラス② 休憩 | マスタークラス③ 休憩 | | 修了コンサート |
| 8月28日(日) | | 開場 | ギター・ ア・ラ・カルト | | 開場 | 福田進一&大萩康司 ジョイントリサイタル | |

※1日通し券で「公開マスタークラス」「修了コンサート」の両方をご鑑賞いただけます。マスタークラス終了後の入れ替えはありません。

※途中で20分休憩があります。

第1日 8月27日(土)

1日通し券 ¥500

※当ホールのみのお取り扱い・友の会割引はありません。

協賛:株式会社 現代ギター社

※1枚のチケットで「公開マスタークラス聴講」「修了コンサート」の両方をご鑑賞いただけます。なお、公開マスタークラス終了後の入れ替えはありません。

公開マスタークラス聴講 13:00開始/12:30開場 自由席

プロを目指すギタリストのレッスンを聴講いただけます。

13:00～ 講師:福田進一 受講生:福山日陽

14:15～ 講師:大萩康司 受講生:大島祥

15:30～ 講師:福田進一 受講生:大谷恵理架



修了コンサート 17:00開演 自由席

公募で集まった公開マスタークラス受講生とギター愛好家で作るギター・アンサンブルのレッスンの成果を披露します。

出演 公開マスタークラス受講生、アンサンブルワークショップ受講生

曲目 公開マスタークラス受講曲

足立知謙:Virgin Forest I—原初の泉、II—緑陰の奥深くより<新曲・世界初演> ほか

(あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール2022年委嘱作品)



第2日 8月28日(日)

ギター・ア・ラ・カルト 13:00開演/12:30開場 指定席

関西実力派ギタリストによる圧巻のカルテット！

出演 岩崎慎一、益田展行、猪居謙、猪居亜美(以上ギター)

曲目 西森久恭:ツインガレスカ序曲(四重奏版)、道化師のスケルツオ(世界初演)

ドビュッシー(サラーテ編):『ベルガマスク組曲』より「月の光」

モリコネ(鈴木大介編):ニュー・シネマ・バラダイス

ムソルグスキー(岩崎慎一編):組曲「展覧会の絵」



入場料¥2,500 友の会会員¥2,250 学生(25歳以下)¥1,000(限定数・電話予約可・当ホールのみのお取り扱い)

Kansai Soloists & Ensembles 26

<福田進一と仲間たちvol.11>

福田進一&大萩康司 ジョイントリサイタル 16:00開演/15:30開場 指定席

師弟で紡ぐ、珠玉のソロ&デュオ！

出演 福田進一、大萩康司(以上ギター)

曲目 ■ソロ 大萩康司

バリオス:大聖堂、ガルデル(ビジャダンゴス編):想いの届く日、吉松隆:リトマスディスタンス op.10

■ソロ 福田進一

チャベス:3つの小品、ピアソラ:5つの小品より(平原～ロマンティコ～伊達男)、ピアソラ(ブホール編):南へ帰ろう～アディオス・ノーノ

■デュオ 福田&大萩

テデスコ:エレジー風フーガ(1967/イダ・プレスティの思い出に)、ヘンデル(ラゴヤ編):シャコンヌ ト長調 HWV435、テデスコ:カノン風ソナチネ(予定)



入場料¥4,000 友の会会員¥3,600 学生(25歳以下)¥1,000(限定数・電話予約可・当ホールのみのお取り扱い)

*都合により曲目などが変更になる場合があります。あらかじめご了承下さい。



ザ・フェニックスホール
友の会優先予約
5月20日(金)
10:00 受付開始

イー・フェニックス
E-PHX優先予約
5月23日(月)
10:00 受付開始

一般発売
5月24日(火)
10:00

インターネット予約による
お申込みは5月25日(水)10:00から!

■アンサンブル・ア・ラ・カルト65

2022年
10月30日(日)

15:00開演 指定席
一般¥4,000(友の会会員¥3,600)
学生(25歳以下)¥1,000(限定数)

ミニマル音楽の金字塔、日本で30年ぶりの再演!
フィリップ・グラス
「浜辺のインシュタイン」
(演奏会形式・抜粋版)

出演 中川賢一(電子オルガン/音楽監督)、廻由美子(電子オルガン)、石上真由子(ヴァイオリン)、
若林かおり(フルート/ピッコロ)、大石将紀、井上ハルカ(以上サクソフォン)、
太田真紀、端山梨奈(以上ソプラノ)、八木寿子、林真衣(以上アルト)、
鹿岡晃紀(テノール)、松平敬(バス)、有馬純寿(音響)

曲目 フィリップ・グラス「浜辺のインシュタイン」(演奏会形式・抜粋版)



ミニマル音楽の伝説的な作品であり、まさに金字塔ともいえるフィリップ・グラス作曲「浜辺のインシュタイン」を日本で約30年ぶりに演奏会形式(抜粋版)で再演します。ミニマル音楽とは、短い音型を反復させながら少しづつ展開させていく音楽的スタイルのひとつで、1960年代頃に登場しました。「浜辺のインシュタイン」は、舞台演出家のロバート・ウィルソンと共に創られ、1976年フランスのアヴィニヨン演劇祭で初演されましたが、そのあまりにも斬新な舞台は、イメージの演劇と評され、音楽のみならず、演劇、美術、ダンスなどあらゆる方面から注目されました。まず本作品には明確な物語はありません。同じ動きが繰り返されるダンスと音楽が一体となり、まるで動く絵画を見続けているような不思議な感覚に誘われます。

また、音楽面においても非常に独創的です。基本となるのは電子オルガンで、短い音型を繰り返しながら独特のリズムを創り出します。その上に無機質な合唱が早口で駆け抜けるように響くのです。歌詞は言葉ではなく、全てがOne(ワン)、Two(ツー)、Three(スリー)…、といった数字とDo(ド)、Re(レ)、Mi(ミ)…といった音階でできています。意味は全くないのですが、言葉の響きと音楽がユニークに融合するのです。また、繰り返されるフレーズも小節ごとに拍子が変わっていくという凄まじい変拍子作品であり、これが他の曲にはない独特的のうねりを生み出します。

演奏は2年前に当ホールで開催したオール・スティーヴ・ライヒ・コンサートの中心メンバーであった中川賢一氏を音楽監督に、グラス作品に精通した最高の布陣でお届けします。これまでにない「浜辺のインシュタイン」が生まれることは間違いません。30年振りに蘇る21世紀版「浜辺のインシュタイン」(あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 宮地泰史)

ホール主催・共催・協賛公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

■ザ・フェニックスホール友の会優先予約

- ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
- 主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
- 友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時に電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

■E-PHX(イー・フェニックス)優先予約

- E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
- チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
- 事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話でのご登録はできません。

■一般発売

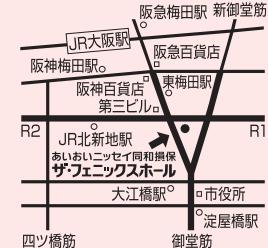
- 一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
- チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

<https://phoenixhall.jp/>

チケットセンターのページからお申みください

直接のご来店による お申込み

- ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物8階、エレベーターを降りて廊下右手です。



チケットお申込み後のお受け渡し方法

電話予約後に郵便振込をしていただき、入金確認後にチケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

共同主催 パシフィック・コンサート・マネジメント/あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

2022年
6月2日(木)

19:00開演 指定席
一般¥6,000(友の会会員¥5,400)
*学生券の取り扱いはありません。

現代最高峰と謳われるフランスの名ピアニストが紡ぐ、祈りと希望の調べ
アンヌ・ケフェレック ピアノリサイタル

再発売中

*本公演は2022年4月1日(金)に中止となった公演の「振替公演」です。当初予定していたプログラムから、下記の内容に変更し開催いたします。公演中止に伴いキャンセルされたお客様の払い戻しチケットを再販売しております。



©Caroline Doutre

出演 アンヌ・ケフェレック(ピアノ)

曲目 J.S.バッハ(ブゾーニ編):コラール前奏曲「いざ来たれ、異教徒の救い主よ」BWV659a
J.S.バッハ:協奏曲 二短調 BWV974より「アダージョ」(原曲 マルチェッロ:オーボエ協奏曲)
J.S.バッハ:協奏曲 二短調 BWV596より「ラルゴ」(原曲 ヴィヴァルディ:合奏協奏曲 RV565)
J.S.バッハ(ペトリ編):カンタータ BWV208より アリア「羊は安らかに草を食み」
スカルラッティ:ソナタ 口短調 K.27 / 木長調 K.531 / 二短調 K.32
ヘンデル(ケンブ編):クラヴィーア組曲 HWV434より「メヌエット」ト短調
J.S.バッハ(ヘス編):カンタータ BWV147より コラール「主よ、人の望みの喜びよ」
ヘンデル:シャコンヌ ト長調 HWV435
シューベルト:ピアソナタ 第21番 変口長調 D960

フェニックス・エヴォリューション・シリーズ2公演が 大阪文化祭奨励賞、音楽クリティック・クラブ賞奨励賞を受賞!

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール共催事業として、2021年度に開催したフェニックス・エヴォリューション・シリーズ2公演が、大阪文化祭賞、音楽クリティック・クラブ賞をそれぞれ受賞いたしました。

■令和3年度大阪文化祭賞奨励賞

「檜垣智也アコースモニウムリサイタル
Terra incognita 一知られざる大地」(2021年8月4日開催)



受賞理由

日本における第一人者として、電子音楽の「アコースマティック」の普及に努めてきた檜垣智也の現時点での集大成。檜垣の新作に加え、ドニ・デュフルールの《知られざる大地》、フランソワ・ベルの《影の劇場》という3作品の演奏では、入念な事前準備と檜垣によるライブでのバランス・コントロールのもと、創造者と演奏者の直接的な対話が生き生きと繰り広げられていた。

■音楽クリティック・クラブ賞奨励賞

石上真由子(ヴァイオリン)「浄められた夜」(2021年11月3日開催)ほか、この1年の間に開催された演奏会などその活動全般が受賞対象



受賞理由

みずからアンサンブル・アモイベという室内楽シリーズを主宰し、関西のみならず東京でも二重奏から六重奏まで、自ら優れた奏者たちに声をかけ、時に応じて様々なアンサンブルを組織して活動を展開し、優れた演奏を披露してきた。その活動は、いずれの演奏会でも第1ヴァイオリン奏者を務め、改めて彼女のヴァイオリニストとしての資質の高さと、アンサンブルを牽引する能力の高さの両面を見せる活躍を見せた。ブルームスやシューマンのヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会やオーケストラ演奏会での協奏曲でも極めて説得力に満ちた演奏を展開し、ソリストとしての資質も十分に認識させた。それらの充実した成果を称え、今後もその活動をさらに活発化させることを期待してクリティック・クラブ奨励賞を授与する。

フェニックス・エヴォリューション・シリーズは、公演企画を公募し、審査で選ばれた方にホールを無料で提供するものです。2023年度の公演企画を募集中です。今後の企画性に富んだユニークな公演にもご注目ください。あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールでは、これからも質の高い公演を皆様にお届けできるよう努めています。今後とも応援のほどよろしくお願ひいたします。

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛・協力公演のご案内 ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。
発売中 当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演 “KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka” The 25th Anniversary Series by Kojima Concert Management
～関西圏の最大拠点 梅田で展開する藝術音楽～

主催 コジマ・コンサートマネジメント

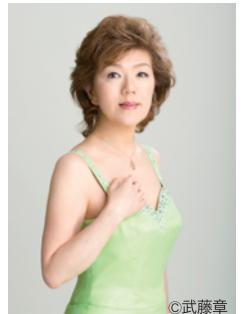
伊藤恵 ピアノ・リサイタル 2022

発売中 2022年7月7日(木) 19:00開演 指定席 前売・当日¥5,000(友の会会員¥4,500) *友の会割引は前売のみ。限定数。

出演 伊藤恵(ピアノ)

曲目 ショパン:4つのマズルカ op.67
シェーベルト:ピアソナタ 第21番 変口長調 D960
ベートーヴェン:ピアソナタ 第8番 八短調「悲愴」op.13
ピアソナタ 第31番 変イ長調 op.110

超難関ミュンヘン国際音楽コンクールピアノ部門で
日本人唯一の第一位受賞者(1983年)。
サヴァリッシュ、フルネ、朝比奈などの巨匠たちとの
数多くの共演でも知られる名ピアニスト。



©武藤章

協賛公演 吳信一×Sun Bones Trombone Trio 「Yon Bones!」vol.2

主催 Sun Bones Trombone Trio

7/1(金) 発売 2022年9月30日(金) 19:00開演 自由席

一般前売¥3,000(友の会会員¥2,700) 一般当日¥3,500(友の会会員¥3,150) 学生前売¥2,000 学生当日¥2,500

出演 Sun Bones Trombone Trio/武内紗和子、岡村哲朗、石井徹哉
ゲスト/吳信一(以上トロンボーン)

曲目 J.M.デュファイ:バッハ風に(ソロ:吳信一)
J.S.バッハ(石井徹哉編):イタリア組曲
建部知弘:トロンボーン4重奏のための五章「ケンタウル祭の夜に」
～宮澤賢治「銀河鉄道の夜」によせて～ (予定)

2017年度フェニックス・エヴォリューション・シリーズ以来、同ホールにてこれまでに数多くの演奏会を開催してきた「さんばんトリオ」が、今回はゲストに「吳信一」氏を迎えて公演を開催。トリオ伴奏のソロ曲から、トリオ、カルテットとトロンボーンアンサンブルの魅力が詰まったプログラムを存分にお楽しみください。



協力公演 《没後30年記念》命日に贈る ピアソラ・ナイト!!!

主催 大阪アーティスト協会

発売中 ①2022年7月4日(月) 18:30開演 自由席 ②2022年7月9日(土) 17:30開演 自由席 前売¥4,000(友の会会員¥3,600) 当日¥4,500(友の会会員¥4,000)

出演 ①[7/4] 高木和弘、釋伸司、岩谷祐之、田野倉雅秋(以上ヴァイオリン)、池田源輝、大槻健太郎(以上コントラバス)、山岸孝教、近藤浩志(以上チェロ)、小池泉、星裕子、今岡淑子(以上ピアノ)、喜多光三(アコーディオン)

②[7/9] 小松加奈、山本葉菜子(マリンバ)、植田恵子(フルート)、亀井貴幸(ギター)、河合由夏&土屋友成(ピアノ連弾)、田中佑子(ヴァイオリン)、池田源輝(コントラバス)、宮崎剛(ピアノ)、エンキ(中国琵琶)
「音登夢アンサンブル」木村直子、根来潤子(以上ヴァイオリン)、白木原有子(ヴィオラ)、木村政雄(チェロ)、南木優子(ピアノ)

曲目 ①[7/4] ピアソラ:3つのタンゴ、アディオス・ノニーノ、ル・グランタンゴ、ブエノスアイレスの四季、アヴェ・マリア、オブリヴィオン、鮫、天使のミロンガ、天使の死、リベルタンゴ

②[7/9] ピアソラ:タンゴ組曲、タンゴの歴史、デカリシモ、オブリヴィオン、アレグロ・タンガービレ、ミケランジェロ70、3つのタンゴ、アディオス・ノニーノ、アヴェ・マリア、天使の死、孤独の歳月、鮫、ブエノスアイレスの四季、リベルタンゴ

協力公演 サマーミュージックフェスティバル大阪2022 in ザ・フェニックスホール 25回目の夏祭を「フランク」に!!

主催 大阪アーティスト協会

発売中 2022年8月11日(木・祝) 17:00開演 自由席 一般前売・当日¥4,000(友の会会員¥3,600) 学生(小・中・高生)前売・当日¥2,000

出演 構成監修:小味渕彦之 案内役:平橋佳代子

高木和弘、田野倉雅秋、佐藤一紀、井上隆平(以上ヴァイオリン)、木下雄介、細川泉(ヴィオラ)、佐藤響、吉田円香(以上チェロ)、滝本恵利、池田源輝(以上コントラバス)、森島肇(ドラム)、福井聰(クラリネット)、田中留美子、畠儀文(以上 弹き歌い)、奥田妃奈、土井麻里愛、栗林萌華、福井真裕子、松本昌敏、渕谷亞由美、芦刈元子、木下千代(以上ピアノ)

曲目 モーツアルト:ヴィレム・ファン・ナッサウの歌による7つの変奏曲 二長調 K.25 フォーレ:即興曲 第1番 op.25

シューマン:ミルテの花 op.25より シューベルト:美しき水車屋の娘 op.25より

フランセ:主題と変奏 op.25 フランク:前奏曲、フーガと変奏曲、ヴァイオリンとピアノのためのソナタ
カプースチン(ルステム・アビヤゾフ<カザン室内管弦楽団>編):コンチェルト・ラプソディ op.25 ほか

あいおいニッセイ同和損害
MS&AD INSURANCE GROUP



地域の皆さまとともに。

弊社は、地域密着を行動指針の一つとする企業
経営を行っており、弊社およびグループ企業にて
培ったノウハウを活かし、地方創生における「まち・
ひと・しごと」の各分野において地域社会、地域
企業のお役立ちに向けた支援を行っております。

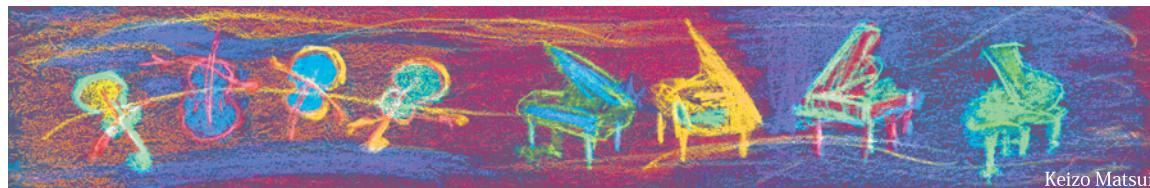
全力サポート宣言



Essay de say エッセイでっせ

2022年度「エッセイでっせ」(全6回)は、各地で開催される音楽祭をご紹介します。気になる音楽祭に出かけてみませんか?

国際音楽コンクールのすすめ



Keizo Matsui

世界が新型コロナ禍に見舞われて2年余り経った。当初は厳しく制限されていたイベント開催も、業界関係者の多大な尽力もあり、コンサートホールに音楽が戻ってきている。制限中はオンラインの楽曲配信などの動きもあったが、クラシック音楽は生演奏に代えられる感動は無いだろう。筆者も数カ月ぶりにザ・フェニックスホールで音楽を聴いた際、自分が音楽を希求していたことを全身で感じたのは記憶に新しい。

演奏会活動が再開されたのに続いて、次は国際音楽コンクールにも目を向けてみたい。入国制限の影響により国内で予定されていた多くの国際コンクールが中止に追い込まれたが、徐々に緩和の動きが見えてきて、今年度からは開催の見込みが立ちそうだ。

コンクール会場では演奏を評価する審査委員だけでなく、一般の聴衆も鑑賞することが多い。通常の演奏会では1~2時間の中で同一の演奏者による音楽が並ぶが、コンクールの場合は進行が大きく違ってくる。対象楽器によって少々異なるが、各ラウンドには指定の課題曲(または時代区分)が設定されて、同じ作品群を1日(又は2日)かけて参加者が入れ替わり演奏する。客席に座っているだけで、参加者達の聴き比べが出来るわけだ。

参加する若手音楽家がコンクールの為に費やす時間と集中力は莫大で、数カ月(場合によつては数年!)もの準備期間をかけて臨む舞台は、人生を左右する運命の岐路となる。それゆえに、コンクールで演奏される音楽には、独特な緊張と熱が込められることが多い。

またコンクールに来ると、演奏会とは違った音楽家の間模様も垣間見える。長期間に亘って開催されているコン



■公演情報

大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023

2023年5月12日(金)~18日(木)

住友生命いずみホール、富山県高岡文化ホール、三重県文化会館(富山と三重はフェスタ1次ラウンド)

詳細は日本室内楽振興財団ウェブサイト <http://www.jcmf.or.jp/competition-festa/>

クールでは、演奏を終えた参加者が会場のロビーなどでもつろいでいて、演奏の極度の緊張から束の間の解放を味わいながら、舞台上の張りつめた表情とは違った顔をのぞかせる。そこでは参加者同士が語らっている姿もあれば、聴衆が労いの声をかけている場合もある。

海外の国際コンクールでは、地元の演奏会主催者が聴きに来ている場合も多く、審査結果に関わらず、自身のお気に入りの参加者が居た場合、その場で出演交渉が始まることもある。筆者が度々訪れたバンフ国際弦楽四重奏コンクール(カナダ)でも、客席の両隣りに座っていたのはアメリカの室内楽主催者で、休憩に入るたびに出演者の品評談義で盛り上がっていた。

この5月からは、来年の大阪国際室内楽コンクール2023の参加団体募集が始まる。本コンクールでは第1部門は弦楽四重奏、第2部門はピアノ三重奏・ピアノ四重奏を対象に開催される。イギリスの名門誌に「世界の4大室内楽コンクールの一つ」と評されており、世界中から秀逸なアンサンブルが集まる。参加する演奏家は、室内楽を活動の中心に据える常設の室内楽団を目指し、一期一会のアンサンブルでは出すことの出来ないサウンドを追求してくれるだろう。

また、同時開催の大坂国際室内楽フェスタ2023は楽器編成や課題曲の指定が無く、世界の伝統音楽や民族楽器も対象にしている。近年の参加団体を振り返っても打楽器、バラライカ、馬頭琴、ピアノデュオ、ドムラ、馬頭琴など、バラエティに富んだ音楽が繰り広げられてきた。フェスタの審査は一般聴衆(事前公募制)の投票で行われ、その場の聴衆の心を最も揺り動かすパフォーマンスを魅せた団体が次のラウンドに進むシステムだ。

演奏会とは一味ちがつた音楽の楽しみ方を見つけられる機会となるので、是非来年はコンクール&フェスタに来場し、音楽家たちの熱演を肌で感じて欲しい。

(公益財団法人 日本国室内楽振興財団 河井拓)



発行年月 2022年5月
発行 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
編集 上田英司
デザイン 松井桂三有限会社

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F TEL 06-6363-0211
Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

